

向井市長は二十日因島方面に出向く事になつてゐる因に尾道から因島に供給する物資の見積りは一月六七十日によるであらうと。

修繕すべき汽船の片影たに存さ因島 最後交渉

決裂した爭議 不安の氣全町を籠衣ふ

因島労働爭議は十八日大阪鉄工所より居中調停者森栞畑二氏の示した最後の妥協案は工場側提案の第一條に記載されゐる笹子工場長に一任すべしとあるを爭議団が絶対に拒絶する旨回答したので工場側では再考を促し二の間の種々の経緯があつた結果遂に職工側から突き返すに至つた。森氏等は尚十八日は徹宵調停を試みたが十九日拂曉に至り遂に調停決裂表して西氏等の盡力は徒勞に終つた。工場側はただ大阪本社より工場閉鎖の命令がないので工場を閉鎖はせぬが十九日土生工場で建造中の大阪廣海面事會社註文の汽船廣進丸を工事未完成のまま大阪に廻航し、三庄の二工場には最早新造船は勿論修繕すべき一隻だけに残さず會社側は最後の決心を示し居るらしい。一方職工側

は依然児童を就學させる所により、集合して協議を重ねたが双方ともシリシリ行くと云ふ事で行かんといふもの態度に出でゐるが閉鎖は遂に司法官の出勤を見るに至り因島警察分署は十七日早朝より児童の就學を阻止した職工も續々引致取調へて十八日日本出張中の所長廣島地方裁判所換筆王小山田、高松警署一行は十九日朝野田議員對筆の来島を待ち工場内に寝起すも爭議反對の職工も何事か取調へ又野田議員審判事は因島警察分署長官舎に假設客を籠衣して職工を籠衣して何事か調停してゐるが不安の氣は全町を籠衣してゐる。七事件の進行に伴ひ爭議に悪影響を生ずる模様あるため問題は案外早く解決するかも知れぬと観測されてゐる。

閉鎖の意は否

右につき大阪本社より誌す

交渉決裂の報はありましたが今の處工場を閉鎖するとかは能く職工を慮分するとかいふ事は考へて居るが然し職工が出て来なければ作業も出来